

<研究報告>

「コロナ禍におけるEAPフォーラム開催に向けた取り組みと課題」

治部 哲也

Jibu Tetsuya

関西福祉科学大学健康福祉学部健康科学科／EAP研究所兼任研究員

I. はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大は、私たちの生活を大きく一変させた。職場においては、出勤制限、在宅勤務やテレワークの導入によって労働環境が大きく変化し、それに伴って働く人々の意識にも変化が生じた。大学等の教育現場においては、対面授業の中止、あるいはソーシャルディスタンスを確保し受講者数を制限したうえでの対面授業の実施、そしてそれらを補完するためのリアルタイム双方向型（ライブ配信型）授業や動画配信型（オンデマンド型）授業といった遠隔授業（オンライン授業）の実施とLMS（Learning Management System）の活用など、各大学の状況に応じて学修機会を提供するための取り組みがなされてきた。また、各種の学術大会、講演会や研修会、イベントの多くがオンラインで開催され、飲み会までもオンラインで行われるようになった。テレワークにしても遠隔授業にしても、また学術大会や講演会・研修会・イベントをオンラインで行うにしても、その技術的基盤となるのはICT（Information and Communication Technology; 情報通信技術）である。コロナ禍にあって、多くの人々がICTを利活用することの重要性を認識することとなった。

さて、このような状況下、2020年度の第15回EAPフォーラム（以下、フォーラムと略す）ならびにメンタルヘルス推進者育成プ

ログラム養成講座アドバンストコース（以下、養成講座）はオンラインでの開催へと変更を余儀なくされた。そこで本稿は、今後の参考とするために、フォーラムをオンラインで開催するにあたって工夫した点や課題等について記録しておくことを目的とする。

II. オンラインでのフォーラム開催に向けた取り組み

1. ライブ配信型かオンデマンド型か

オンラインでフォーラムを開催するにあたり、最初に検討したのが、ライブ配信型で行うのか、オンデマンド型で行うのか、あるいは両方で行うのかであった。最近ではウェビナー（「ウェブ」と「セミナー」を合わせた造語でインターネットを通じてオンラインで行うセミナー）の開催が増加しているが、本フォーラムはウェビナーに相当するものである。ウェビナーはライブ配信型とオンデマンド型に分けられる。

結論を先に述べるが、最終的に今回のフォーラムはオンデマンド型のウェビナー形式での開催となった。以下、そこに至る経緯を述べていく。

2. ウェビナー開催のためのツールの選定と課題

ライブ配信型でウェビナーを開催する

際に使用されるツールには、Zoom Video Communications社のZoomウェビナーやブイキューブ社のV-CUBEセミナー、Cisco Systems社のWebEx Eventsなどがある。Microsoft社のTeamsもOffice 365の契約プランによってはライブイベント機能を使ってウェビナーの開催が可能である。一般的に知られているZoom（Zoomウェビナーとは異なるサービス）やGoogle社のGoogle Meetなどのビデオ会議システムとウェビナーシステムとの違いは、ビデオ会議システムが数人から数十人程度の参加者での会議を想定しているのに対し、ウェビナーシステムは100人以上の参加者で特定の人が話者になることを想定している点が挙げられる。

関西福祉科学大学（以下、本学と略す）では、Microsoft Office 365を導入しているためTeamsの利用が可能であるが、契約プラン（無料のAIプラン）の制約上ライブイベント機能は利用できず、よってTeamsを使ってウェビナーを開催することは困難であった。そこで、比較的使い方の分かりやすいZoomウェビナーを利用する方法が候補として挙げられた。しかし、そこには大きな問題が存在した。多くの企業がセキュリティ等の問題からZoom（Zoomウェビナーも含む）の使用を禁止しているのである。したがって、参加者の多くが企業に所属していることを考えると、Zoomを利用することは避けなければならなかった。また、他のウェビナーシステムの導入については、費用の問題や使用方法が未知である点などから見送らざるをえなかった。

このような経緯から、ライブ配信型ではなく、オンデマンド型のウェビナー形式でフォーラムを開催することとなった。

3. オンデマンド型ウェビナー開催のための準備

(1) 動画の収録

動画の収録は、2020年12月10日(木)に大阪梅田の阪急グランドビル26階の貸会議室において、感染症防止対策を講じたうえで行われた。収録には、講演者の岩根幹能氏と向井蘭氏、EAP研究所所長および職員と筆者が参加した。

講演の雰囲気再現するために、パワーポイントスライドをスクリーンに投影し、講演者の姿とスライドが同じフレームに収まるように撮影した。撮影時には、A) スクリーン上のスライドが見えること、B) 講演者の顔が見えること、C) 講演者の音声鮮明に聞こえることを重視した。とくにAとBを両立させることは難しい課題であった。ビデオカメラの露出をスクリーンに合わせると講演者の顔が暗くなって見え、逆に講演者の顔に露出を合わせるとスクリーンの文字が見えないという問題が発生する。ビデオカメラのダイナミックレンジの性能上、1台のビデオカメラでこの問題を解決することは不可能であった。そこで2台のビデオカメラを用意し、1台はスクリーンに露出を合わせ、もう1台は講演者に露出を合わせて撮影した。こうして撮影した2つの動画をPCでの動画編集時に1つの動画に合成した。Cの課題については、講演者の手元にボイスレコーダーを設置して音声を別撮りし、その音声をPCでの編集時に動画と合成させる（ビデオカメラの音声と差し替える）方法で解決した。これらの工夫により、スクリーン上のスライドも見え、演者の表情も見え、音声も鮮明に聞こえる動画が完成した。

(2) 動画共有サービスの利用

動画を公開する際には、フォーラム参加者に限定して動画を公開する必要があった。そこで、動画共有サービスのInter Active

Corp社のVimeoの有料プラン（Proプラン）を利用した。

VimeoのProプランを利用した理由として、A)費用が比較的安価である点（年間2万4千円）、B) 動画の再生にあたり広告を非表示にすることができる点、C) 動画のパスワード保護が可能である点、D) 指定したドメイン（Webサイト）内でのみ動画再生が可能になるよう設定ができる点、E) 動画の再生速度をコントロールする機能を付加できる点、F) 動画の視聴履歴の分析が可能である点、G) 1週間にアップロードできるデータ量の制限が20GBであり複数の動画をアップロードするのに十分であった点などが挙げられる。Vimeoの無料プラン（Plusプラン）でも前述のB) 広告の非表示とC) 動画のパスワード保護は可能であるが、1週間にアップロードできるデータ量の制限が5GBであるため、複数の動画をアップロードするには不十分であった。

尚、一般的な動画共有サービスYouTubeの限定公開を利用すれば、URLを知っている者のみに限定して動画を公開することも可能であるが、これは動画を保護したことにはならない。何らかの方法でURLを知ることができれば、誰でも動画を再生できてしまうからである。

（3）フォーラム専用サイトの開設

動画を公開するにあたり、健康科学科オリジナルWebサイト（<http://kenkou-kagaku.net>）内に「第15回EAPフォーラム専用サイト」を開設した。この専用サイトにVimeoの動画を埋め込み、Vimeoの動画はこの専用サイト内でなければ再生できないように設定した。これには前述のD) 指定したドメイン（Webサイト）内でのみ動画再生を可能とする設定ができる点が役立った。専用サイトには、動画とともに講演スライドのPDFファイルをアップロードし、参加者が

自由にダウンロードできるようにした。また、フォーラムに対するアンケートを行うために、Microsoft Formsを使用したWebアンケートフォームのURLを掲載した。そして、この専用サイトにパスワードを設定して保護した。参加者にはEAP事務局より専用サイトのURLとパスワードをメールで通知した。

Vimeoには動画のパスワード保護機能があるので、個々の動画をパスワードで保護することも可能であった。しかし、参加者が動画を視聴する際に都度パスワードを入力するのは不便であると考えた。そこで、個々の動画をパスワードで保護するのではなく、パスワードで保護された専用サイトを設置し、指定されたドメイン（Webサイト）内でのみ動画再生が可能ないように設定したのである。これにより、参加者は専用サイト上で、都度パスワードを入力する手間もなく、すべての動画を視聴することが可能となった。

今回、フォーラム専用サイトを健康科学科オリジナルWebサイト内に設置したこともあって、参加者の皆様に健康科学科について知っていただくよい機会となったのではないかと考えている。

Ⅲ. 振り返りと今後の課題

1. 動画収録時に注意すべき点

講演の雰囲気再現するために、パワーポイントスライドをスクリーンに投影し、講演者の姿とスライドが同じフレームに収まるように撮影したが、そこでいくつかの課題が見つかった。それは、スクリーン上に投影されたスライドの見やすさの問題である。岩根氏の講演の際に、会場のプロジェクターとノートPCとの相性（恐らくリフレッシュレートの問題）により、スクリーンに投影したスライドにモアレ（干渉縞）が発生していた。動画編集時にモアレの除去・低減を試みたが、

完全に除去することはできなかった。結果的にスライドが見づらく、視聴者に不快感を与えてしまった。尚、向井氏の講演の際には別のノートPCを利用したため、同様のモアレは発生しなかった。プロジェクターとPCの相性を制御することは困難であるため、今後はスクリーンに投影されたスライドを撮影するのではなく、PC上のスライド画面を録画する方法を採用すべきである。

2. 作業とスケジュールの問題

今回のフォーラムは、新型コロナウイルスの感染拡大状況を見ながら、どのような形で開催するのかを検討してきた。オンデマンド型のウェビナー形式で開催することが決定したのが11月中旬であった。その後、2020年12月10日（木）に動画収録を行い、4日後の12月14日（月）に動画を公開するという非常にタイトなスケジュールであった。この間に動画を編集し、それをVimeoにアップロードし、専用サイトを構築する作業を筆者が1人で行うこととなった。筆者は日常的に動画を収録・編集しサーバーにアップロードする作業や学科オリジナルWebサイトの運用を行う作業を行っているので、作業自体はそれほど難しいものではなかった。しかし、編集した動画の書き出し（エンコード）と動画のアップロードにはそれなりの時間が必要である。例えば、PCの性能や動画の設定にもよるが、60分の動画を書き出すのに60分以上を要する。こうした作業は属人的である。よって、今後同様の形式でフォーラムを開催するのであれば、EAP研究所スタッフがこれらの作業スキルを身に付けることも必要となってくる。

3. オンデマンド型によるフォーラム開催の利点

動画の視聴履歴の分析結果やフォーラム

に対するアンケート結果から、オンデマンド型によるフォーラム開催の利点が明らかとなった。視聴履歴の分析結果からは、北海道から九州にかけて幅広い地域からの参加者があったことがわかった。アンケート結果からは、場所や時間に捉われず自分の都合に合わせて視聴することができる、再生を止めてメモを取ったり重要な部分を繰り返し再生したりすることができるといった利点が明らかとなった。また、次回もオンラインでの開催を希望する声もあった。

IV. おわりに

今回のオンラインでのフォーラム開催を通じて、オンラインで開催するうえでのノウハウを蓄積することができた。また利点や欠点、課題も明らかとなった。これらの経験を今後のフォーラムや講演・セミナー・イベント等にも生かしていきたい。

最後に、フォーラム開催にあたりご協力いただいた講演者の岩根幹能氏と向井蘭氏、そしてフォーラムにご参加いただいた皆様に深くお礼申し上げます。